

Package plautopatch v0.9n

Hironobu Yamashita

2021/02/13

日本の p \LaTeX /up \LaTeX フォーマットや専用パッケージが、これらを知らない \LaTeX パッケージ（しばしば海外で作られた汎用のもの）と衝突することがあります。最悪の場合にはエラーが出たり、誤った出力が得られたりすることがあります。

この plautopatch の目的は、こうした非互換を意識せずに済むようにすることです。具体的には、p \LaTeX /up \LaTeX と衝突するパッケージが使われた場合に、その衝突を解消するパッチを提供するパッケージを必要に応じて自動的に読み込みます。こうすることで、ソースコードを簡潔にできるだけでなく、p \LaTeX /up \LaTeX で動作するソースと通常の \LaTeX ソースの見た目を近づけることができます。

このパッケージは GitHub で開発しています。

<https://github.com/aminophen/plautopatch>

動作条件

\LaTeX 2 ϵ 2020-10-01 以降の場合は、カーネルが提供するフックシステムの `\AddToHook{package/before/...}` 及び `\AddToHook{package/after/...}` を利用します。 \LaTeX 2 ϵ が古い場合は、filehook パッケージ (Martin Scharrer 氏の作) に依存します。

使い方

このパッケージを \LaTeX ソースの冒頭で読み込みます。このために、`\RequirePackage{plautopatch}` を `\documentclass` や他のコマンドよりも前に読み込むことをお勧めします (クラスファイルなどが問題のあるパッケージを読み込む可能性もあるため)。

例を示します。

```
%\RequirePackage{plautopatch}
\documentclass{tarticle}% 縦組クラス (plext 使用)
\usepackage{array}% plext と非互換
\begin{document}
...
\end{document}
```

上記の例では、tarticle クラスが内部で読み込む plext パッケージと、ソース中で `\usepackage` している array パッケージが衝突してエラーになる場合があります。しかし、冒頭で `\RequirePackage{plautopatch}` とだ

け書いておけば、array パッケージの時点で plectarray パッケージが追加で読み込まれるため、問題が解消します。このように自動追加されたパッケージは、`\end{document}`の時点で次のように一覧として表示されます（複数の場合はコンマと空白で区切ったリストになります）。

```
**** List of packages loaded by 'plautopatch': ****  
  plectarray.  
*****
```

現在対応しているパッケージの一覧

凡例：

- <元のパッケージ> (<元が含まれるバンドル名>)
 <パッチのパッケージ> (<パッチが含まれるバンドル名>)

現在のバージョン (2021/02/13 v0.9n) がサポートしているのは下記のパッケージです。

- doc (latex)
 → pldocverb (platex-tools)
- tracefnt (latex)
 → ptrace/uptrace (platex/uplatex)
- fltrace (latex)
 → pfltrace (platex)
- array (latex-tools)
 → plarray (platex-tools)
- array (latex-tools) + plect (platex)
 → plectarray (platex-tools)
- delarray (latex-tools) + plect (platex)
 → plectdelarray (platex-tools)
- colortbl + plect (platex)
 → plectcolortbl (platex-tools)
- arydshln
 → plarydshln (maintained here!)
- arydshln + plect (platex)
 → plectarydshln (maintained here!)
- siunitx
 → plsiunitx (maintained here!)
- colcell
 → plcolcell (maintained here!)
- everysel (ms)
 → pxeveryssel (platex-tools)
- everyshi (ms)

- pxeveryshi (platex-tools)
- atbegshi (oberdiek)
 - pxatbegshi (platex-tools)
- ftnright (latex-tools)
 - pxftnright (platex-tools)
- multicol (latex-tools)
 - pxmulticol (platex-tools)
- xspace (latex-tools)
 - pxxspace (platex-tools)
- textpos
 - pxttextpos (gentombow)
- eso-pic
 - pxesopic (gentombow)
- pdfpages
 - pxpdfpages (gentombow)
- stfloats (sttools)
 - pxstfloats (pxsttools)
- hyperref
 - pxjahyper (by Takayuki YATO)
- pgfrcs (pgf)
 - pxpgfrcs (maintained here!)
- pgfcore (pgf)
 - pxpgfmark (by Takayuki YATO)

もちろん、このリストは随時、追加・削除・置き換えていく予定です。互換性の問題や追加したいパッケージがある場合はご一報ください。

特定のパッケージを除外したい場合

デフォルトでは、上記のリストに登録されている<元のパッケージ>が使われたことを検出すると、全て自動的にパッチを読み込みます。しかし、時にはこれが逆効果となり、問題が起きる可能性は否定できません。そのような場合は

```
\plautopatchdisable{<元のパッケージ>}
```

と書くことで、そのパッケージを検出対象から除外します。複数ある場合は

```
\plautopatchdisable{<元のパッケージ 1>,<元のパッケージ 2>}
```

のようにコマンドで区切っていくつでも除外できます。

変更履歴

- 2018/08/21 v0.2 最初の CTAN リリース版
- 2018/08/22 v0.3 元パッケージ検出の改良
- 2018/09/21 v0.5 colortbl と pgf もサポート
- 2018/10/02 v0.6 arydshln のサポート
- 2018/10/27 v0.8 everysel サポートの改良
- 2018/11/03 v0.9 siunitx のサポート
- 2018/11/25 v0.9b multicol と doc のサポート
- 2019/06/06 v0.9c siunitx のパッチ改良
- 2019/09/05 v0.9d xspace と stfloats のサポート
- 2020/02/25 v0.9e textpos のサポート
- 2020/05/05 v0.9f collcell のサポート
- 2020/05/25 v0.9g pxjahyper の自動読込
- 2020/09/13 v0.9h L^AT_EX 2_ε 2020-10-01 では filehook 非依存に
- 2020/09/25 v0.9i pxeveryshi と pxatbegshi を不要に (L^AT_EX 2_ε 2020-10-01 対応)
- 2020/09/27 v0.9j eso-pic のサポート (要 L^AT_EX 2_ε 2020-10-01)
- 2020/10/14 v0.9k トンボ関連パッチを gentombow へ移動
- 2020/10/21 v0.9l \plautopatchdisable が機能しなかったバグを修正
- 2020/11/26 v0.9m pgf 最新版に追随
- 2021/02/13 v0.9n pxeverysel を不要に (L^AT_EX 2_ε 2021-05-01 対応)